

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月28日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500729

研究課題名（和文） 英国・ヘレンズバラの保全地区における歴史的建造物の保存と現代生活への活用手法

研究課題名（英文） Research on preservation and use by present-day life of historic buildings in Helensburgh

研究代表者

山岸明浩（YAMAGISHI AKIHIRO）

信州大学・教育学部・教授

研究者番号：80230340

研究成果の概要（和文）：本研究では、スコットランドにおける歴史的建造物の保存制度について明らかにするとともに、ヘレンズバラにおける歴史的建造物の保存と活用の現状、およびケーススタディとして歴史的建造物の保存と活用に関する詳細な調査を実施した。その結果、歴史的建造物の保存制度は、2011年12月にSHEPに取り込まれ、歴史的環境の保護といったより広範な枠組みの中に位置付けられるようになった。また、保存と活用の現状については、95件の登録建築の中には用途が変更され大規模な改修がなされ活用されているケースが見受けられた。さらに、ケーススタディを通して、歴史的建造物の室内環境は良好であるが、保存と活用の実現には居住者の理解が重要であることなどが見出された。

研究成果の概要（英文）：In the study, the preservation system of the historic buildings in Scotland was clarified, and it investigated that current state of preservation and use of historic buildings in Helensburgh. As a result, the preservation system of the landmark was taken into SHEP in December, 2011, and came to be located to a wider frame where the historical environment was protected. Moreover, the case where the usage was changed in listed 95 buildings and it was performed and a large-scale repair has been used was seen about the current state of preservation and use. In addition, the resident's understanding was found to be important etc. to the achievement of preservation and use though the indoor environment of the historic building was well through the case study.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：住居学

科研費の分科・細目：生活科学，生活科学一般

キーワード：住環境，文化遺産，サステナブル

1. 研究開始当初の背景

地球環境への配慮や人類の文化遺産の保全が求められる現代において、歴史的建造物

の保存活用は重要な側面であり、これはサステナブル建築と密接な関連を有すると考えられる。「サステナブル建築と地球環境建築

の展望」に示されるように、サステナブル建築はサステナブル・デベロップメントがレスター・ブラウンにより提唱され、国連のブルントランド委員会での報告「我ら共有の未来」（1978年）やリオデジャネイロの地球サミット（1992年）から広く認知されるようになった。その後、我が国においては、建築関係5団体の取り組みにより、2000年6月に制定された地球環境・建築憲章に発展する。サステナブル建築の定義は、「①地域レベルおよび地球レベルの生態系の収容力を維持する範囲内での建築のライフサイクルを通して、省エネルギー、省資源、リサイクル、有害物質の排出抑制を図り、②その地域の気候、伝統、文化および周辺環境と調和しつつ、③将来にわたって人間の生活の質を適度に維持、向上させていくことができる建築物」とされている。このような中、歴史的建造物の保存活用は、現在の住生活や住環境のあり方に求められている地球環境との調和といった今世紀の学術的な課題を包含しており、地域文化の創造にも繋がる社会資本の保存と現代生活への活用手法に発展するものである。

歴史的建造物の保存活用については、英国において先駆的に取り組まれておりその歴史は長い。国内の既往研究では、大橋が英国の中でもイングランドを中心にした登録建造物制度の歴史的変遷と私的所有権にかかわる問題についての考察を行い、様々な試行錯誤の結果、制度化がなされてきたとしている。建築物の保存と現代生活での活用に関連する研究では勝又らの建築物の劇場・ホールへの転用に関する研究があり、英国の劇場・ホールの内、建物の転用がなされているものは全体の35%を占め、その中で別用途からの施設は22.4%になるとしている。また、スコットランドにおける歴史的建築物の保存活用に関する動向には、スコットランド政府関連の行政組織であるヒストリック・スコットランドの活動がある。ヒストリック・スコットランドは、次世代へスコットランドの遺産を継承することを目的とした活動を行っており、建築物を含む人類の様々な創造物を対象とした保存活動や教育活動を実施している。具体的には、伝統的な価値を有する人類の創造物をA～C(S)の3段階にカテゴリー分類し、各カテゴリーに対応した保存活用指針の提示を行うとともに、保存活用に関する専門的なアドバイス、および経済的支援などを実施している。

一方、研究の継続性の観点では、本研究の取組は平成17年度から18年度にかけて実施した科学研究費補助金（萌芽研究）「英国にみる高齢者施設の機能を有する歴史的建築物の保存・活用に関する萌芽研究」による成果を発展させるものである。平成17-18年度

の研究では、現在は高齢者施設として転用されている歴史的建造物ケアンドゥを対象とした保存活用の実態について明らかにした。本研究では、ケアンドゥで得られた知見を背景に、ケアンドゥと同じ地域に位置する他の歴史的建造物の保存と現代生活への活用手法について考究するものである。これにより、歴史的建造物の保存と活用手法に関するノウハウが蓄積され、今後の我が国における住環境や住生活・生活造形の計画に有用な知見を得ることが可能となるものと考えられる。

2. 研究の目的

英国のスコットランドには、数多くの歴史的建造物が登録されている。北方に位置するスコットランドは、日本の長野県や新潟県などと同様に寒冷な気候条件を示す地域である。寒冷地域における歴史的建造物の活用上の特徴は、歴史的建造物の現代生活への活用を行う場合、衣食住に関わる生活様式の変化への対応とともに、断熱や暖房、エネルギー種別などの建築構法、設備への対応が必要となることである。そのため、建築計画上のソフトとハードの両面において増改築が行われ、歴史的建造物の保存と現代生活への活用手法に関して種々の具体的な事例を見出すことが可能である。

以上より、本研究は、スコットランド地方に数多く存在する歴史的建造物の内、ヘレンズバラの保全地区内における歴史的建造物に関する調査を通し、現代生活の多様な用途に活用されながら保存されている歴史的建造物の保存活用手法について考究することを目的とする。また、特に現代の住生活における建築物の保存活用に焦点を絞り調査を進め、伝統的な生活造形の保存とともに現代生活における生活財の活用の立場からのアプローチを試みる。

これまでの我が国における建造物の保存活用に関する既往の研究では、歴史・美術的な価値の保存・修復に重点がおかれた成果が主であった。しかし、近年においては建造物の用途の変更や改修により、現代生活への適応を試みながら建造物の保存・修復を行う事例が報告されはじめている。このような社会的背景には、地球環境への配慮や地域生活における社会資本の整備・有効活用などが望まれていることがある。また、建造物の保存と住生活での活用を同時に行う場合、建造物の造形的な要素だけではなく、地域の気候風土条件や生活スタイルに適応した暖冷房や厨房・衛生機器などの設備・材料面での対策が必要であり、建造物の保存活用の立場からの技術的な検討と工夫が重要となる。

本研究では、建造物の保存活用の観点から歴史・美術的価値の保存・維持管理と現代生活における活用という性格の異なる要素の調

和的な手法のあり方に着目しており、先駆的に取り組みが実施されている英国の特定地域においてフィールド調査を実施し、生活造形、および技術的な側面の双方から歴史的建造物の保存活用手法に関する知見を見出す点において、学術的な特色を有する。また、本研究の内容はサステナブル建築に通ずることから、対策が急がれている地球環境保護の潮流にも密接に関連するものである。

調査対象とする英国のスコットランドに位置するヘレンズバラは、世界遺産に登録されているエディンバラや近代産業革命の源であり日本の近代化に密接な関わりを持つグラスゴーといった歴史・経済・技術的に伝統ある都市を有する地方にあり、歴史的建造物が数多く存在する地域である。また、住環境は我が国と同様に沿岸地域に位置しており、気候は寒冷な地域にある。このように、国際的に見ても歴史的かつ中心的な位置づけにあり、我が国と多くの共通点を有する地域において、現代の住生活に適応した歴史的建造物の保存活用に関する様々な取り組みについて調査しデータを蓄積することは、今後の我が国における建築行政や地域活動、さらには新たな経済活動の創造に有効な知見を与えるものと考えられる。

さらに、本研究における新たな点は、調査地域と調査内容、および研究組織に集約される。本研究における調査地域は、既往の英国研究に多いイングランドではなくスコットランドに位置するヘレンズバラである。本研究においてヘレンズバラに着目する理由は、前述のようにスコットランドが我が国と多くの共通点を有することとともに、マッキントッシュなどの我が国の生活造形との関係が深いデザイナーの建造物が現存していることによる。また、調査内容については、既往の歴史的建造物に関する研究では主に形態・造形的な価値に主眼がおかれていたが、本研究においては形態・造形的価値とともに現代の住生活への適応の観点からの新たな提案を試みようとするものである。一方、良好で特色ある地域環境の保存の観点から我が国においても伝統的建造物保存地区の制度が昭和 50 年に発足しているが、多くの地区は観光資源となっているのが現状である。本研究での調査対象であるヘレンズバラも歴史的建造物の保存地区となっているが、地域内では地域住民の日常生活が快活に行われ建造物の保存と活用が上手く調和した地域である。このことから、まちづくりの面においても有用な知見を得ることが可能であると考える。

3. 研究の方法

本研究は、平成 21 年度から平成 23 年度の 3 年間実施した。調査地域である英国のヘ

レンズバラを対象に、1)歴史的建造物に関する資料収集、2)歴史的建造物の初段階分布マップの作成、3) 歴史的建造物の保存活用制度の調査、4) 現代の住生活における歴史的建造物の保存活用に関する実態調査、5)歴史的建造物の分布マップの作成、6)歴史的建造物の保存活用手法の検討、を行った。

4. 研究成果

(1)スコットランドにおける歴史的建造物の保存制度について

①歴史的建造物の保存に関する制度は、SHEP (SCOTTISH HISTORIC ENVIRONMENT POLICY December 2011) の中に取り込まれている。SHEP は歴史的な環境に対するスコットランド政府の政策であることから、歴史的建造物の保存制度は、歴史的環境の保護といったより広範な枠組みの中に体系的に位置づけられながら重要な役割を担っており、長期的な政策の中で継続的な投資などが行われながら活動が行われている。そして、その活動においてヒストリック・スコットランドの果たす役割は重要であるとともに、地方自治体や他の機関や団体との連携が確保されながら取り組まれている。

②歴史的建造物の評価は、a)造年代と希少性、b)建築学的、あるいは歴史的価値、c)限定的な歴史的関係性の 3 つの観点から実施されている。このことから、登録される建造物の評価基準は単に建築年代だけではなく、建造物の希少価値や特殊性、歴史的観点からの重要性など、地域の伝統や文化、史実の保存の観点から策定されているものである。

③実際の歴史的建造物の選定を行う主体はヒストリック・スコットランドである。ヒストリック・スコットランドは建造物の選定調査をする際に、建造物の所有者、地方公共団体、専門家と連携を取りながら、歴史的建造物の選定を行う。歴史的建造物として指定される建築物は、以下の 3 つのカテゴリーに分類されている。

【カテゴリーA】

国内または国際的なレベルにおいて、建築的、あるいは歴史的、あるいはひとつの時代様式をそのままの状態で保っている重要な建造物。

【カテゴリーB】

地方的なレベルで重要、あるいはある程度の変更がなされているものの、ひとつの時代様式の事例となる建造物。

【カテゴリーC(S)】

カテゴリーA、B には該当しないが、時代様式や建築様式において希少性があり地域的なレベルで重要な建造物。

④歴史的建造物の管理運用については、様々な対応がなされている。建築物の変更につい

ては、歴史的建築物に指定されていても可能であるが、手続きの流れとしては、歴史的建造物を管理している地方公共団体において、建築物の変更に際し歴史的な環境の保護の観点からの条件について同意を経た上で、建築許可申請をすることにより変更が可能となる。また、歴史的な建造物の所有者を支援する体制も整えられており、これらの支援体制は、主にヒストリック・スコットランドと地方自治体からの交付金として実施されている。

(2)ヘレンズバラの保存地区における歴史的建造物の保存と活用の実態について

①ヘレンズバラの保存地区における歴史的建造物の分布状況をマッピングした結果、保存地区内で登録されている建造物数は現在95件である。ヘレンズバラの保存地区内には数多くの歴史的建造物が密集しており、個々の建物の価値だけではなく、地域全体が歴史的環境を形成していることから非常に重要な地域であると考えられる。

②保存地区内の95件の歴史的建造物について、マッピングしたMap番号に対応させながら、それぞれの歴史的建造物の「名称」、「カテゴリー」、「登録日」、「所在地」、「現地での確認の有無」の情報について、データベース化を行った。その結果、カテゴリーA登録の建造物は全体の8%（8件）、カテゴリーB登録の建造物は全体の63%（60件）、カテゴリーC(S)登録の建造物は全体の29%（27件）である。スコットランド全体のカテゴリー比率はカテゴリーAとBの合計が60%程度であることから、ヘレンズバラの保存地区における歴史的建築物の集積価値は非常に高いと考えられる。また、歴史的建造物への登録は1971年5月14日から1993年9月24日までに行われているが、全体の82%の82件が1993年6月30日に登録されている。

③ヘレンズバラの保存地区における歴史的建造物の保存・活用の実態を明らかにするために、現地踏査による歴史的建造物の確認と画像データの収集を実施した。その結果、現代生活における歴史的建造物の活用の観点からは、ヘレンズバラの歴史的建造物の多くは、オリジナルの用途が別荘であったことから現在も住居として活用されている。しかしながら、大規模の邸宅については2戸世帯用の住宅に分割される事例や、B&Bといったホテルや学校への転用が見受けられた。また、居住者属性の観点では、地域住民の高齢化が見受けられ、歴史的建造物の維持・管理も含めた地域の活性化が望まれ、さらに歴史的建造物のバリアフリー化についても検討が必要と考える。

(3)歴史的建造物の保存と活用のケーススタディについて

①20世紀初頭にW. リーパーが増築・改修を

行い現在も住居として活用されているタイナマラについて、当時の増築・改修の内容と現在に至るまでの変遷について考察した。タイナマラが歴史・伝統的建造物のカテゴリーBとして登録されたのは1993年であるが、1904年にリーパーによって行われた19世紀の邸宅の増築・改修、その後の1988年に行われた増築・改修の変遷をみると、既存建物を生かしながら居住者の生活要求に適応させる計画がなされている。また、現オーナー夫人のケイト・ベネット氏も建造物に愛着を持ってその維持管理を実施している。

②さらに、冬季と夏季の温熱環境の現状について測定を行った結果、夏季冬季ともに室温は安定した変動を示し、良好な温熱環境を形成している。また、インテリアに使用されている木質系材料の保存環境条件の観点からは、夏季においては良好な環境条件に近い値を示す部屋が多いが、冬季においては良好な環境条件よりも低湿側を示し、歴史的建造物の保護に関し、冬季の低湿対策が必要であることが推察される。

③スコットランドにおける小学校の校舎を住宅に改築し、高齢者夫婦が生活する建物において長期間の温熱環境測定を実施した結果、相対湿度については顕著な乾燥状態は見受けられず、良好であると考えられる。一方、室内の気温については、気温の日・年変動は小さいが、冬季における気温において、やや低温の状態であることが示され、暖房上の工夫の必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

①山岸明浩, 小野文子, スコットランドにおける伝統的建造物保存制度と19世紀邸宅Tigh-na-Maraの改修変遷, 人間と生活環境, Vol.1 No.2, 99-107, 2009, 査読有

②山岸明浩, 小野文子, スコットランドにおける小学校の校舎を改築した高齢者住宅の温熱環境, 第33回人間-生活環境系シンポジウム報告集, 155-158, 2009

[学会発表] (計1件)

①山岸明浩, 小野文子, スコットランドにおける小学校の校舎を改築した高齢者住宅の温熱環境, 第33回人間-生活環境系学会, 2009.11.29, 福岡

[その他]

①山岸明浩, 英国・ヘレンズバラの保全地区における歴史的建造物の保存と現代生活への活用手法, 2009年度~2011年度 科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果

報告書（研究課題番号：21500729），A4,
p.93, 2012

6. 研究組織

(1)研究代表者

山岸 明浩 (YAMAGISHI AKIHIRO)

信州大学・教育学部・教授

研究者番号：80230340

(2)研究分担者

小野 文子 (ONO AYAKO)

信州大学・教育学部・准教授

研究者番号：10377616

(3)連携研究者

()

研究者番号：